

2020年3月31日

## 松本研究室 10年

神奈川大学 松本 太

2010年4月1日から始まった松本研究室が今日2020年3月31日で10年を経過した。5年間のアメリカ生活からの日本への復帰で果たしてどれだけできるかと不安を持っていたが、どうにかこうにか10年を神奈川大学で過ごすことができた。研究室を主宰すると同時に子供が生まれ、研究室運営と子育てという二つをこなさなければならなかったので、非常に時間のやりくりで苦心した。査読付き論文を55報出したことは、神奈川大学でのインタビューで亡き西久保先生から神奈川大学に来たらどの程度論文を出せるのかと聞かれたときに年に4~5報と答えたことを考えると、有言実行である程度頑張った成果であろう。自分で点数を付けるとすると70点ぐらいであると考えている。



10年間に東日本大震災、最近のコロナウイルスなど世の中の大変な出来事があり研究室での研究活動を長く休止したこともあった。研究室内でもノロウイルスでの研究室内の消毒や軽微な実験事故など様々な出来事があった。幸いにも大きな事故がなかったことが本当に良かったことであり、安定な状態で研究活動を行えることが非常にありがたいと感じる昨今である。反省点としては、卒業研究、修士論文から数名の学生を脱落させてしまったことである。

神奈川大学での仕事はあと18年になる。これからの課題としては、第一に郡司さんを一人前の研究者として他大学に転出させることである。私が行ってきた研究・教育の一つの成果として彼には是非大学でのポジションをとってもらいたい。また、学生には大学院に進んでもらって、産業界でリーダーとなって活躍してくれるような人材を育てていきたい。研究室を大学院生主体のグループにしていきたい。

現在、1か月間研究活動を休止しているが、この状況が回復に向かって、また研究室で若者の活発な声が聴ける環境が戻り、残り18年の神奈川大学での勤務を健康に全うしていきたいと思えます。